

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名：駒ヶ根市

1. 事業の概要

事業名称	駒ヶ根市日本語教育事業
事業の目的	・市及び市民団体が運営している日本語教室・講座が協働・連携して、日本語を母語としない外国籍住民に対する効果的な日本語教育事業を展開する。 また、関係団体が連携する仕組みも構築し、異文化理解力の向上を図る。日本人と外国人とが円滑な市民生活を創出するための多文化共生のまちづくりを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	(地域の実情) 当市の外国籍住民数は、平成20年秋の世界的な経済危機の影響で減少して以来、横ばいで推移し、定住化が進んでいる。平成23年度の調査では、「日本語使用に悩みがある」人の割合が60%と、外国人にとって「言葉の壁」の存在が円滑な日常生活の障害となっている様子が明らかになった。また、それを改善していくための体制も十分整っていない。 平成27年度は、公民館で日本語教育事業を実施したところ、市民と共に社会教育活動を取り込んで開催することで学習者の関心が高まった。しかし、職場の日本人や同国人としか交流をしない・できない外国籍住民を巻き込むにはいたっていない。 当市には「地球人ネットワークインこまがね」が運営する日本語教室がある。学習者のレベルに合わせた指導を行うため、初学者も参加しやすい。その運営には外国籍住民が関わっているため、彼らを通じて地域に関わろうとしなかった人々の参加が増えてきている。彼らとの交流窓口としての役割は年々増している。 (課題) 1. 今まで地域社会に関わりを持ってこなかった外国籍住民の参加者の伸び悩み。 2. 地球人の受講者・ボランティアの増加により、各員の意思疎通、受講者の情報共有に齟齬をきたしはじめている。 3. 新たなボランティアへ外国籍住民との接し方、日本語教授法等を学べる体制の不備。 4. 上記課題の解決に総合的に関われる地域在住のコーディネーターの不在。
事業内容の概要	・取組1…【「地球人ネットワークインこまがね」による日本語指導】 在日時間が長い外国籍住民(オールド・カマー)と、新たに転入してきた外国籍住民(ニュー カマー)の双方にとって参加しやすい日本語教室を開催する。集まりやすく、日本人と情報交換できる場所としての役割も担う。 ・取組2…【駒ヶ根市の生活情報と共に学ぶ日本語学習教室】 外国籍住民が必要とする制度(主に社会福祉に関わるもの)に関する勉強会や防災訓練など、ニーズに沿った学習機会の場を設ける。彼らのニーズを満たすと共に、相談できる部署・担当者との面識を得ることを見込む。 また、外国籍住民に地域でどういった支援が必要なのか、住民の気付きの場とする。 ・取組3…【公民館で地域住民と学ぶ日本語教室の実施】 基礎的な日本語学習だけではなく、日本文化や地域の風習を学ぶ機会の提供を図る。多様な日本語に触れることと、日本語ボランティア以外の地域住民と交流する契機とする。 ・取組4…【日本語教育ボランティア人材・組織の育成】 外国人支援に携わるボランティア・組織の双方が、外国人を取り巻く状況や他地域の取組を学べる研修会を実施する。ボランティアとしてのあり方、外国籍住民との関わり方を学ぶと同時に、他組織の運営方法などへの理解も深め、次年度以降の個人と組織の活動充実につなげていく。 ・取組5…【日本語指導ボランティアの日本語指導力向上】 新しい日本語指導ボランティアへの日本語教授法の研修講座を定期的に開催する。ボランティア各自の日本語指導力の向上と、地域在住の日本語教師との人脈作りと交流を見込む。 ・取組6…【日本語学習発表会】 本事業に関わる受講者とボランティアが、学習した内容や気づきについて発表する。彼らだけではなく、地域住民や彼らの友人・知人の参加を促す。参加者へ本事業と多文化共生の必要性を発信する。
事業の実施期間	平成28年4月20日から平成29年3月13日まで

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	高坂 保	駒ヶ根協力隊を育てる会(会長)
2	春原 直美	佐久市市民活動サポートセンター(センター長)
3	宮越 幸代	長野県立看護大学(准教授)
4	高森 アナ	地球人ネットワークインこまがね(会長)
5	伊藤 勝	地球人ネットワークインこまがね(日本語指導部長)
6	藤井 佳代	地球人ネットワークインこまがね(事務局)
7	石場 八重子	駒ヶ根市外国籍市民相談窓口
8	肥野 みさを	赤穂公民館(館長)



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年6月20日 (月) 10:00～12:00	2時間	駒ヶ根市役所	・高坂 保 ・宮越 幸代 ・伊藤 勝 ・石場 八重子 ・春原 直美 ・高森 アナ ・藤井 佳代 ・肥野 みさを	1 運営委員の顔合わせ 2 運営委員長の選出 3 今年度事業の概要説明・質疑応答 4 年度当初から開始している取組の情報共有
2	平成28年12月12日 (月) 10:00～12:00	2時間	駒ヶ根市役所	・高坂 保 ・宮越 幸代 ・伊藤 勝 ・肥野 みさを ・春原 直美 ・高森 アナ ・石場 八重子	1 事業内容の状況報告と・質疑応答 2 各取組の進捗状況報告・検証 3 残り事業期間で取り組むべき課題 4 来年度事業の模索
3	平成29年3月13日 (月) 10:00～12:00	2時間	駒ヶ根市役所	・高坂 保 ・宮越 幸代 ・伊藤 勝 ・石場 八重子 ・春原 直美 ・高森 アナ ・藤井 佳代 ・肥野 みさを	1 本年度事業の総括・検証 2 来年度事業計画の説明・質疑応答

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	・駒ヶ根市企画振興課(関係団体との連絡調整、ボランティア講習会、募集広報) ・赤穂公民館(日本語講座の実施、外国籍住民と地域の日本人との結節点) ・地球人ネットワークインこまがね(日本語習得の取り組み) ・長野県看護大学(学生ボランティアの参加) ・青年海外協力隊(本事業への提言、各種取組への参加)
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	【コーディネーター】 本事業を真に多文化共生に寄与するものとすべく、市役所だけではなく関係省庁・民間団体などの協力を仰ぎ、外国人のニーズを汲み取る。また、市内の関係各所との連絡を密にとり、本事業に関わるボランティア・組織の活動が活性化することを念頭に業務にあたる。 【窓口・取りまとめ】 取組1と2の企画・実施にあたって、コーディネーターと特に密に連絡と調整を担当する。情報共有及び、外国人のニーズの把握などの役割も担ってもらう。 【実施担当】 公民館の日本語教室を企画・実施していく。地域住民との交流を主眼に置きながら、日本・地域文化の体験や生活力の向上を目指す。
----------	--

3. 各取組の報告

取組1	取組の名称		「地球人ネットワークインこまがね」による日本語指導						
	取組の目標		【オールドカマーとニューカマー双方に対応した日本語指導】 ・会話に不自由はしないが、読み書きに難があるオールドカマーのための指導を行うことで、自立的な生活に必要な日本語習得を目指す。 ・日本語の勉強を始めて日が浅いニューカマーでも学びやすい初学者向けの指導を行い、基礎的な日本語力の習得を目指す。						
	取組の内容		【参加者の語学力とニーズに応じた日本語指導】 ・レベル分けは、当日の参加者の顔ぶれで判断する。 ・参加者のニーズになるべく合わせた教材を使用する。受講者の学習ニーズは年々多様化しているので、教案の蓄積と指導ボランティア間での情報共有を密に行う。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		・市主体の体制ではなく、ボランティアが主体となって教室運営にあたる。組織運営をより高度なものにしていく。 ・市は取組1の活動を活発化できるよう、会場・託児の手配等の後方支援に徹する。						
	取組による日本語能力の向上		・日本語学習歴の浅いニューカマーは、まず対面式で日本人と学習することで実際の日本語に慣れ、その後の学習や職場でのコミュニケーションが円滑になることが期待できる。 ・永住者や日本人の配偶者等の一定の日本語力のあるオールドカマーは、会話よりも読み書き中心に学び、生活に必要な文書類(行政文書・学校からの便り)への理解が深まることが期待できる。 ・地域の外国人が地球人ネットワークインこまがねの運営に参画していたため、それぞれの出身国のコミュニティの方々の拠り所としても機能しはじめている。そのため、日本語の文法知識だけではなく、日本語での地域・生活情報を学ぶことも期待できる。						
	参加対象者		・駒ヶ根市に在住在勤の外国人及び近隣の外国人 ・地球人ネットワークインこまがね ボランティア				参加者数 (内 外国人数)	61人 (40人)	
	広報及び募集方法		・市のウェブサイト、市報、チラシ、広域情報誌の掲載、企業及び不動産会社への呼びかけ ・地球人ネットワークによるSNSを立ち上げて情報発信を行う。 ・各出身国の顔役の人物を通じて情報を発信してもらうように協力を仰ぐ。						
	開催時間数		総時間 150時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		・駒ヶ根市企画振興課(地球人ネットワークとの連携調整、募集広報) ・長野県看護大学(多文化共生看護学履修の学生の参加)						
	開催場所		駒ヶ根市高齢者保険福祉施設 ふれあいセンター内 ボランティアセンター						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		4	7	0	0	7	4	3	4
		ペルー(9人)、モロッコ(1人)、アメリカ(1人)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成28年4月20日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティアセンター	1	日本語教室	①助詞(で・は・が)の使い方を学習		伊藤 勝	
2	平成28年4月23日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティアセンター	3	日本語教室	①「みんなの日本語」で学習 ②N4レベル問題集で学習 ③N4レベル問題集(言い換え問題)で学習		小野 和憲	
3	平成28年5月11日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティアセンター	1	日本語教室	①「みんなの日本語」で学習		福澤 友美	
4	平成28年5月14日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティアセンター	6	日本語教室	①カタカナの読み書き、時間・数詞、練習 ②N3レベル漢字を学習 ③N4レベル問題集で学習		小野 和憲	
5	平成28年5月17日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティアセンター	1	日本語教室	①病院に関係する漢字を学習		藤井 佳代	
6	平成28年5月18日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティアセンター	4	日本語教室	①「みんなの日本語」で学習 ②「～うちに」「～間に」を学習 ③「～しなければなりません」を学習		伊藤 勝	
7	平成28年5月21日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティアセンター	6	日本語教室	①カタカナの読み書き、時間・数詞、練習 ②漢字(妻・命・子供)を学習 ③N4レベル読解を学習 ④「ストーリーで覚える漢字」で学習 ⑤N3レベル漢字を学習		小野 和憲	
8	平成28年5月24日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティアセンター	1	日本語教室	①レアリアでわからない単語を学習		藤井 佳代	

9	平成28年5月25日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①「みんなの日本語」第1課で学習 ②住所を漢字で書く練習 ③N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
10	平成28年5月28日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①N3レベル文法を学習 ②N4レベル文法を再確認 ③「ストーリーで覚える漢字」で学習	小野 和憲	
11	平成28年5月31日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①レアリアで料理に関する言葉を学習	藤井 佳代	
12	平成28年6月1日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①「みんなの日本語」と日常表現を学習 ②動詞の「～たい」形を学習 ③N4レベル文法を復習 ④「～のかわりに」を学習	福澤 友美	
13	平成28年6月4日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①「まったく～ない」、「すでに」を学習 ②N4レベル問題集で学習 ③「みんなの日本語」で学習	松澤 哉子	
14	平成28年6月7日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①レアリアで料理に関する言葉を学習	藤井 佳代	
15	平成28年6月8日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①現状の日本語力の確認 ②病気や保険に関わる単語を学習 ③N4レベル文法を学習 ④「みんなの日本語」で学習	伊藤 勝	
16	平成28年6月11日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	7	日本語教室	①現状の聞き取り(日本語力・生活等) ②「みんなの日本語」で学習 ③N3レベル文法を学習 ④「使役形・使役受身」を学習 ⑤N4レベル問題集で学習	小野 和憲	
17	平成28年6月14日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「日本語90日漢字ノート」で学習 ②「ストーリーで覚える漢字」で学習	松澤 哉子	
18	平成28年6月15日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	7	日本語教室	①氏名、住所、学校名を漢字で書き取り ②N3レベル語彙を学習 ③「みんなの日本語」と漢字の復習 ④「ストーリーで覚える漢字」で学習 ⑤N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
19	平成28年6月18日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①「ていただけませんか」、「のようだ」 を学習 ②漢字(非常口等)を学習しました	松澤 哉子	
20	平成28年6月21日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①住所の書き方を練習	藤井 佳代	
21	平成28年6月22日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①レアリア内の漢字の読み書きを練習 ②「みんなの日本語」で学習 ③「ストーリーで覚える漢字」で学習 ④「ます形」→「辞書形」変換を学習 ⑤N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
22	平成28年6月25日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	7	日本語教室	①「みんなの日本語」第15課を学習 ②自己紹介、氏名の書き方の練習 ③N3レベル漢字の学習 ④「～てよい」、「～ところ」等を学習	小野 和憲	
23	平成28年6月28日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①レアリアの読解	藤井 佳代	
24	平成28年6月29日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①市報の読み方を学習 ②「みんなの日本語」、ゴミの分別を学習 ③「みんなの日本語」で学習 ④N4レベル文法を学習	福澤 友美	
25	平成28年7月2日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①「みんなの日本語」第15課を学習 ②「みんなの日本語」第1課を復習 ③「まるで～のようだ」を学習	小野 和憲	
26	平成28年7月5日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①体の部位、動物、果物の単語を学習 ②所得申告書の読解と記入を学習	藤井 佳代	
27	平成28年7月6日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	7	日本語教室	①「あいうえおの本」でひらがなを学習 ②「みんなの日本語」21～25課の復習 ③漢字の復習 ④N3レベルの副詞を学習 ⑤「ストーリーで覚える漢字」で学習 ⑥「～ながら」、「～までに」を学習	伊藤 勝	
28	平成28年7月9日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①ひらがなの書き取り練習 ②「漢字300」で学習	福澤 友美	
29	平成28年7月13日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①「みんなの日本語」を学習 ②日々の生活について会話練習 ③N4文法を学習	伊藤 勝	
30	平成28年7月16日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	7	日本語教室	①漢字(小学生レベル)練習 ②自己紹介、「宝船」で漢字カタカナを学 習 ③N3聴解練習 ④「宝船」でカタカナ・漢字を学習 ⑤N3レベルの聴解を学習 ⑥「漢字300」で学習	松澤 哉子	
31	平成28年7月19日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①時計の読み方、生活で多用する動詞 ②レアリアの読解	藤井 佳代	
32	平成28年7月20日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①N3問題集で学習 ②「ぜひ～てください」を学習 ③住所・資格等の漢字を学習 ④N4レベル文法を学習	松澤 哉子	

33	平成28年7月23日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	8	日本語教室	①「みんなの日本語」で学習 ②N3文法教材で学習 ③体の部位の読み書き練習 ④「漢字300」で学習 ⑤N4レベル文法を学習	松澤 哉子	
34	平成28年7月26日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①ひらがなの書き取り練習	藤井 佳代	
35	平成28年7月27日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①N3文法を学習 ②「ています」・「てしました」を学習 ③N4文法を学習	伊藤 勝	
36	平成28年8月20日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①「漢字300」で学習 ②N4レベル聴解で学習	松澤 哉子	
37	平成28年8月23日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①混同しやすいひらがなの復習	藤井 佳代	
38	平成28年8月24日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①看護大学生と会話練習 ②「新完全マスター文法N4」で学習	伊藤 勝	
39	平成28年8月27日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①「みんなの日本語」第22課を学習 ②「介護」のアンケート読解と記入 ③「漢字300」で学習(2グループ)	松澤 哉子	
40	平成28年8月31日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「みんなの日本語」で学習 ②「新完全マスター文法N4」で学習	伊藤 勝	
41	平成28年9月3日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「みんなの日本語」第23課を学習 ②「漢字300」で学習	小野 和憲	
42	平成28年9月7日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①N3レベル漢字の学習 ②会話練習 ③「新完全マスター文法N4」で学習	伊藤 勝	
43	平成28年9月10日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	8	日本語教室	①N4文法テキストで学習。 ②「漢字300」で学習 ③N3文法を学習 ④「みんなの日本語」第24課を学習 ⑤漢字・語彙の練習 ⑥慣用句の使い方を学習	小野 和憲	
44	平成28年9月13日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①自己紹介、氏名・住所の漢字練習 ②会話練習(日本語を学ぶ目的等)	藤井 佳代	
45	平成28年9月14日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①N3レベル漢字を学習 ②N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
46	平成28年9月17日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①ひらがなの読み書き、日常会話の練習 ②N3文法の復習 ③漢字・語彙の練習 ④N3レベル文法を学習 ⑤「漢字300」で学習	小野 和憲	
47	平成28年9月20日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①自己紹介の復習、助詞の学習 ②レアリアの読解	藤井 佳代	
48	平成28年9月21日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①N3レベル漢字の学習 ②会話練習 ③N4文法レベルを学習	伊藤 勝	
49	平成28年9月24日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①N3問題集の学習 ②「～してもいいです、いけません」を学習 ③漢字・語彙の練習	松澤 哉子	
50	平成28年9月27日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①助詞「に・で・へ・を」を学習 ②レアリアの読解	藤井 佳代	
51	平成28年9月28日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①自国のコーヒーについて日本語で説明 ②「使役受身形」を学習	松澤 哉子	
52	平成28年10月1日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①「みんなの日本語」で学習 ②「みんなの日本語」第4課を学習 ③「漢字300」で学習	小林 朝子	
53	平成28年10月4日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①助詞の復習(1つずつ例文作成した) ②レアリアの読解	藤井 佳代	
54	平成28年10月5日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①自己紹介、あ～は行の書き取りと発音 ②「新完全マスター文法N4」で学習 ③「みんなの日本語」で学習	伊藤 勝	
55	平成28年10月8日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①「みんなの日本語」、ひらがなの学習 ②日時、「みんなの日本語」を学習 ③「漢字300」で学習	小林 朝子	
56	平成28年10月11日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①レアリオの読解	藤井 佳代	
57	平成28年10月12日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①「みんなの日本語」、ひらがなの学習 ②N4レベル文法を学習 ③N3レベル漢字の学習	伊藤 勝	
58	平成28年10月15日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①自己紹介、あ～は行の書き取りと発音 ②絵本を使ってあ行の単語を学習 ③N4文法問題集で学習 ④森・日本等の漢字を書き取り ⑤会話練習	小野 和憲	
59	平成28年10月18日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①ひらがなの書き取り練習 ②助詞の復習(他の学習者と会話形式)	藤井 佳代	

60	平成28年10月19日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①「みんなの日本語」第1課、あ行の復習 ②「みんなの日本語」第1課、カタカナ練習 ③N4文法問題集で学習 ④助詞(で・に・を・と)を復習	伊藤 勝	
61	平成28年10月22日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①あ～は行の読み書き復習 ②簡単な質問文をひらがなで書き取り ③漢字練習(2グループ)	小林 朝子	
62	平成28年10月25日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①助詞の復習 ②レアリアの読解	藤井 佳代	
63	平成28年10月26日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①「みんなの日本語」第1課 ②ひらがなで簡単な単語の書き取り練習 ③N4文法問題集で学習 ④N3漢字の学習	伊藤 勝	
64	平成28年10月29日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①漢字の学習(小学校3年生レベル) ②N4レベル文法を学習 ③「にほんごチャレンジN4-N5」で学習 ④「漢字300」で学習	小林 朝子	
65	平成28年11月2日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
66	平成28年11月5日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①挨拶、数詞の学習 ②「漢字300」で学習	小林 朝子	
67	平成28年11月8日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①レアリアの読解 ②自己紹介と会話練習	伊藤 勝	
68	平成28年11月12日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①「いっぽ～暮らしの日本語教室」で学習	小林 朝子	
69	平成28年11月16日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①海外旅行の経験を日本語で話す ②生活や仕事について日本語で説明 ③N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
70	平成28年11月19日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	7	日本語教室	①数詞の使い方、会話練習 ②「みんなの日本語Ⅱ」26課 ③N2レベル文法を学習 ④住所の書き取り練習、会話練習 ⑤会話練習	小野 和憲	
71	平成28年11月22日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「みんなの日本語」で助詞を学習 ②レアリアの読解	松澤 哉子	
72	平成28年11月26日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①動詞の学習(活用方法・例文作り) ②生年月日、職場の言葉、数詞、時間の 学習 ③会話練習 ④N3レベル文法を学習	小野 和憲	
73	平成28年11月29日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①レアリアの読解	藤井 佳代	
74	平成28年11月30日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①N3レベル聴解練習 ②N4レベルの語彙を学習 ③「使役・使役受身形」を学習 ④他動詞と助動詞の使い分けを学習	伊藤 勝	
75	平成28年12月2日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①英会話本で日英訳の比較で学習 ②漢字の学習(木、林、森、日、月、火) ③「みんなの日本語Ⅱ」26課・練習A ④「使役受身」を学習 ⑤N3文法を学習	小野 和憲	
76	平成28年12月6日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①助詞、日常でよく聞く単語の意味を確認	藤井 佳代	
77	平成28年12月7日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①曜日の読み書き練習 ②生活に関係する漢字の学習 ③日本語能力試験問題集で学習 ④「受身形」・「尊敬語」の違いを学習	伊藤 勝	
78	平成28年12月10日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①漢字(小学生1年生レベル)の学習 ②「みんなの日本語Ⅱ」26課の復習 ③「にほんご90日漢字ノート」で学習 ④「みんなの日本語漢字練習帳」で学習	小野 和憲	
79	平成28年12月13日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「～たら」、「～すると」の使い方	藤井 佳代	
80	平成28年12月14日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	4	日本語教室	①月、週等の基本的な年月日の学習 ②生活に関係する漢字の学習 ③職場アンケートの読解と記入 ④品詞の使い方を学習	福澤 友美	
81	平成28年12月17日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①「げんき」を使って学習、漢字の学習 ②「にほんご90日漢字ノート」で学習 ③「受身」・「使役形」を学習 ④「～たびに」・「うちに」を学習 ⑤「漢字300」で学習	小野 和憲	
82	平成29年1月11日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
83	平成29年1月14日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①漢字の学習(学校、先生、色の漢字) ②日常生活に必要な日本語を学習 ③生活や職場でよく使う言葉を学習	小林 朝子	

84	平成29年1月17日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①会話練習(正月の過ごし方について) ②病院に関する単語を学習	藤井 佳代	
85	平成29年1月18日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①N4問題集で学習	伊藤 勝	
86	平成29年1月21日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	7	日本語教室	①「げんき」を使って学習、漢字の学習 ②漢字(小学生1年レベル、日常使う) ③職場で使う日本語、道順の説明練習 ④数詞・お金に関する漢字の読み書き ⑤「漢字300」で学習	小野 和憲	
87	平成29年1月24日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「しんにほんごの基礎Ⅰ」、漢字の学習 ②自国の話を日本語で話す、助詞の学習	藤井 佳代	
88	平成29年1月25日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「みんなの日本語」第37課を学習 ②N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
89	平成29年1月28日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①「げんき」を使って学習、漢字の学習 ②「[にほんごチャレンジことば]」で学習 ③「[に対して]・[反面]・[一方]」を学習 ④「漢字300」で学習(2グループ)	松澤 哉子	
90	平成29年1月31日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①レアリオ内の漢字の読み書きを学習	藤井 佳代	
91	平成29年2月1日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「みんなの日本語」第37課を学習 ②「使役形」・「使役受身形」を学習	伊藤 勝	
92	平成29年2月4日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①「できる日本語」を使って学習 ②運転免許書学科試験教科書の読解 ③生活上必要な漢字を学習 ④N3レベル文法を学習 ⑤春夏秋冬の漢字を学習	小林 朝子	
93	平成29年2月7日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①擬音・擬態語の学習	藤井 佳代	
94	平成29年2月8日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	2	日本語教室	①「みんなの日本語」第37課を学習 ②N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
95	平成29年2月15日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①N4レベル文法を学習	伊藤 勝	
96	平成29年2月18日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	6	日本語教室	①運転免許書学科試験教科書を読解 ②N3レベルの語彙を学習 ③生活上必要な漢字を学習 ④N3レベル文法を学習 ⑤「漢字300」で学習	小野 和憲	
97	平成29年2月21日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①道に迷った時の道順の尋ね方を学習	藤井 佳代	
98	平成29年2月22日 (水) 19:00～20:30	1.5	ボランティア センター	3	日本語教室	①「日本語総まとめ」を学習 ②「日本語90日漢字ノート」で学習 ③N4レベル問題集で学習	伊藤 勝	
99	平成29年2月25日 (土) 10:00～11:30	1.5	ボランティア センター	5	日本語教室	①「N4にほんごチャレンジ」を使って学習 ②運転免許書学科試験教科書を読解 ③N3レベルの語彙と助詞の復習 ④N3レベル漢字を学習 ⑤「漢字300」で学習	小野 和憲	
100	平成29年2月28日 (火) 13:30～15:00	1.5	ボランティア センター	1	日本語教室	①日本語で自国の紹介、「てにをは」練習	藤井 佳代	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第53回 平成28年10月4日】

日本語指導ボランティアが増えてきたことで、学習者に1対1で個別対応が可能となってきた。この教室での日本語教育を通じた人間関係の構築により、教室後に生活相談をするなど、外国籍住民にとっての地域との窓口としての存在が高まっている。



○取組事例②

【第86回 平成29年1月21日】

学習者によって異なる学習進度やニーズに応じたグループ分けと指導が行われた。教室後は、ボランティアが得意とする分野や経歴を活かして学習からの生活相談に応じるなど、個々の能力を存分に発揮している。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・目標としていたオールド・カマー、ニュー・カマー双方の日本語学習進度やニーズに合わせた日本語教室を開催することができた。これは、新規の日本語指導ボランティアが増加したことにより、学習者へ個別対応ができるようになったことに因るところが大きい。また、学習者の同国出身者への呼びかけで教室に参加する人々が増えてきた。
- ・日本語初学者であるニュー・カマーが求めるひらがな・カタカナの読み書きといった基礎的な指導から、行政文書の読み書きといったオールド・カマーが必要とする変則的な指導にもボランティアが親身になって対応している。学習者へのアンケートからは、ボランティアへの高評価が読み取れる
- ・従来にない動きとしては、学習者が教室後に母国語をボランティアに教えるという取組が行われ、双方向の文化交流が生まれている。

(3) 今後の改善点について

- ・今年度の本取組への外国籍住民の学習者数は前年度と同じ40人であった。ただし、学習者の顔ぶれは前年度から大きく入れ替わっており、学習者の日本語レベル・学習意欲等の情報を聞き取る作業やファイル管理といった事務作業が多くなっている。取組に参加するボランティア増加により、組織の活動方針や日本語指導法、学習者の情報共有が難しくなっている。連絡会の回数を増やし、学習者に会議に参加してもらう等の工夫がなされているものの、中心となる事務局担当者の負担が大きい。
- ・日本語ボランティアへのアンケート結果からは、日本語教授法が心許なく、そのレベルアップが必要であるという意見が多く寄せられた。
- ・次年度以降は、教室運営に係る労力を軽減し、教室を活発化させる方策を紹介できるような研修の機会を提供していきたい。また、日本語教授法と組織の実情に合った教室運営の見本となるような研修も併せて実施していきたい。

＜取組2＞										
取組2	取組の名称		駒ヶ根市の生活情報学習教室							
	取組の目標		・外国籍住民からのニーズに沿った生活情報を学ぶ場を企画する。 ・学習の機会を通じて、いざという時に頼れる地域住民との交流を図る。							
	取組の内容		・地球人ネットワークインこまがねには、駒ヶ根市内外に暮らす外国人が集まり、日本語学習だけではなく生活に必要な情報等も日本人ボランティアから学んでいる。そこで、彼らのニーズをくみ取り、外国籍住民に必要な生活情報について情報を得られるよう、専門家や通訳を交えた学習の場を設けることにより、これまで教室に来なかった外国籍住民層を掘り起こし、そのニーズを把握すると共に、日本語学習に繋げる。 ・生活情報については、地域住民がより分かりやすくサポートできると考えられることから、住民同士が共通の生活情報について学ぶという場をデザインする。 ・地域に暮らす外国籍住民の抱える不安やニーズを日本語指導ボランティアも理解することで、より受講者に寄り添った日本語指導・情報交換を促す。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		・外国人のニーズに応えられる専門家との連携。 例：行政に関することは市役所担当課職員、在留資格・職場の悩みなどは行政書士、社会保険労務士 ・専門家の説明が誤解なく伝わり、必要な質疑応答ができるように各言語の通訳・翻訳者とも連携する。 ・生活情報を分かりやすく住民同士で教えあい、助け合う上で、必要となるリソースを把握し、準備する。							
	取組による日本語能力の向上		・オールドカマー、ニューカマー共に必要な社会保障などの情報や地域の生活情報を理解することで、生活の質の向上、地域社会への順応が期待できる。 ・外国人に参加するメリットを提示することで、今まで地域活動等へ参加をためらって外国人が外に出る契機になることを期待する。 ・地域住民である講師やボランティアが、外国人の抱える悩みやニーズをより肌に感じることで、日本に暮らす外国人への理解が深まる。							
	参加対象者		・駒ヶ根市に在住在勤の外国人及び近隣に居住する外国人 ・地球人ネットワークインこまがね ボランティア ・地域の専門家（行政関係者、行政書士、社会保険労務士など）				参加者数 （内 外国人数）		24人 （12人）	
	広報及び募集方法		・市のウェブサイト、市報、チラシ、広域情報誌の掲載、企業及び不動産会社への呼びかけ ・地球人ネットワークによるSNSを立ち上げて情報発信を行う。 ・各出身国の顔役の人物を通じて情報を発信してもらうように協力を仰ぐ。							
	開催時間数		総時間 3 時間（空白地域 時間）							
	主な連携・協働先		・駒ヶ根市企画振興課（地球人ネットワークとの連携調整、募集広報） ・市役所内関係部署 ・地域の行政書士、社会保険労務士							
	開催場所		駒ヶ根市高齢者保険福祉施設 ふれあいセンター							
	参加者の出身・国別内訳 （人数）		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			1	0	0	0	0	0	1	3
			ペルー（5人）、コロンビア（1人）、メキシコ（1人）							
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成28年10月30日（日） 13:30～16:30	3	ふれあいセンター	24	生活情報講座	・公的保険と民間保険講座		山岸 佑葵 福澤 友美		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成28年10月30日】

外国籍住民は語学の壁から情報弱者になりがちで、公共サービスを利用しにくいというハンディがある。また、配偶者の日本人に保険等の手続きを任せきりになってしまっている。公的・民間の各種保険制度を理解することで、彼らの生活を豊かにする一助となることを目的として実施した。

学習者には、専門用語は日本語の音で覚えてもらい、概念は誤解なく伝わるように、各言語ごとの翻訳資料と通訳者を揃えた。本取組後にも参加者以外の外国籍住民にも正しい説明ができるように、日本語ボランティアにも参加してもらった。



(2) 目標の達成状況・成果

学習者とボランティアに正確な知識を学んでもらったことに加え、公的・民間の保険制度に関する多言語での翻訳資料を作成することができた。これにより、今後、より多くの外国籍住民に受益範囲を及ぼすことが可能となった。

講座後に行ったアンケート調査には、「資料がわかりやすかった」、「複雑な制度と思っていたけど、よくわかった」という好意的な評価が寄せられた。また、講師と連絡先を交換するなど、今回の講座が困った時の相談先を得るきっかけともなった。

(3) 今後の改善点について

- ・参加者の多くが取組1の学習者とその家族であり、地域の額国籍住民へ広く参加してもらえていない。次年度以降は、SNSでの発信や彼らがよく通う商店、他地域の日本語教室への広報協力等の工夫が必要。
- ・生活情報講座に既存の関係団体以外の新しい協力を求めたい。外国籍住民への情報提供以上に、新しく協力いただく方々に地域の外国籍住民の実情や情報弱者であるという認識を持ってもらう。こうした積み重ねをすることが、日常生活や災害時の外国籍住民特有のハンディへの配慮に繋がる。
- ・講座の企画、講師・翻訳・通訳の手配、広報等の業務が多く、当初予定していた年間3回の開催ができなかった。業務の分担や協力者の確保などを心がけていく。

＜取組3＞									
取組3	取組の名称		公民館で地域住民と学ぶ日本語教室の実施						
	取組の目標		・多様な地域住民が集まる赤穂公民館を会場にすることで、地域住民とのコミュニケーションを図る。 ・オールドカマー・ニューカマー問わず、彼らの関心が高い日本文化などをテーマとすることで、日常生活以外の多彩な日本語に触れる機会とする。						
	取組の内容		【外国人の関心が高いイベントを通じて日本語を学ぶ】 ・事業開始にあたって外国人と公民館担当者がワークショップを行ない、取り上げるテーマを選定する。 ・テーマを学ぶ際に必要となる基礎知識は、講師の作成した資料で予習と復習を行う。 ・テーマの講師は、地域の専門家を招聘して実体験を交えた指導を実施してもらう。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		・27年度に続いて地域住民が集う赤穂公民館で実施する。外国人が日々の生活の中で困ったこと等を、公民館に集まる日本人に相談できる、日本人が繋がる拠り所になることを期待する。 ・主に公民館の講座や教室で指導されている地域講師の方々に活躍してもらい、連携していく。 ・27年度は受講者が講師となってスペイン語講座を主催したり、ネパール人研修生と公民館家庭部と小中学生が一緒に料理教室と母子保健について学ぶ等の企画が実施できた。28年度も受講者が受身となるばかりではなく、積極的に地域と関わる取り組みを後押しできるように体制を整備していく。						
	取組による日本語能力の向上		・受講者の関心の高い内容にすることで、興味を持ってもらい学習意欲を引き出すことが期待される。						
	参加対象者		・駒ヶ根市に在住在勤の外国人及び近隣に居住する外国人 ・公民館職員、各種講座の講師など				参加者数 (内 外国人数)	40人 (22人)	
	広報及び募集方法		・市のウェブサイト、市報、チラシ、広域情報誌の掲載、企業及び不動産会社への呼びかけ ・地球人ネットワークによるSNSを立ち上げて情報発信を行う。 ・各出身国の顔役の人物を通じて情報を発信してもらうように協力を仰ぐ。						
	開催時間数		総時間 23 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		・駒ヶ根市企画振興課(募集広報) ・赤穂公民館(公民館講座の講師や専門家の講演依頼、受講者発信のイベント企画) ・長野県看護大学(多文化共生看護学履修の学生の参加)						
	開催場所		・赤穂公民館 ・必要に応じて市内関係施設を利用						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
8			3	0	0	1	1	1	2
ペルー(3人)、ロシア(1人)、アメリカ(1人)、カナダ(1人)									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成28年5月28日 (土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	13	開講式	・講座の開講式 ・式後に学習者同士の顔合わせ ・今年度の学習内容のアイデア会議		塩澤 真洋	
2	平成28年6月25日 (土) 13:30～15:30	2	市内 旧木下家住宅	15	郷土食体験 中沢おやきづくり	・地域文化を学ぶ ・講師との共同作業を通じて、自然な会話力の向上も図った		中沢おやき 保存会	塩澤 真洋
3	平成28年7月23日 (土) 13:00～16:00	3	赤穂公民館	12	浴衣着付け体験	・地域文化を学ぶ ・浴衣を着て夏祭りへ出かけて地域住民と交流を図った		木下 喜代子	塩澤 真洋
4	平成28年8月27日 (土) 13:00～16:00	3	赤穂公民館	3	盆栽教室	・日本文化を学ぶ ・地域住民との交流を通じた会話力向上を図った		中原 知得	塩澤 真洋
5	平成28年9月24日 (土) 13:00～16:00	3	赤穂公民館 市内	20	市内フットパス巡り	・駒ヶ根市内のまち歩きを行い、地域の歴史を学んだ。 ・看護大学生とペアで歩き、会話力の向上を図った		まほろばの里 研究会 有志	塩澤 真洋 看護大学生
6	平成28年10月22日 (土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	19	看護大学生による講座	・看護大学生による健康教育 ・講座後のハロウィーンパーティーでの交流		看護大学生	塩澤 真洋
7	平成28年12月17日 (土) 13:00～16:00	3	赤穂公民館	2	生け花教室	・日本文化を学ぶ ・地域住民との交流を通じた会話力向上を図った		宮澤 京子	塩澤 真洋
8	平成29年1月21日 (土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	2	漬物づくり	・日本文化を学ぶ ・地域住民との交流を通じた会話力向上を図った		肥野 みさを	
9	平成29年2月18日 (土) 13:00～16:00	3	赤穂公民館	4	みそづくり	・日本文化を学ぶ ・地域住民との交流を通じた会話力向上を図った		青木 一夫	肥野 みさを

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成28年6月25日】

職場と住居の往復が中心の生活になりがちな外国籍住民に、伝統家屋や郷土食といった地域文化に触れる体験を提供できた。学習者の気質も手伝って、終始楽しい雰囲気のもと、日本語で活発に会話を試みていた。
地域住民にとっては、あまり機会のなかった外国籍住民との交流であり、彼らの母国の話を聞いたりする機会となった。地域住民に外国籍住民と肩肘張らない交流の機会の提供ともなった。



○取組事例②

【第5回 平成28年9月24日】

参加者に看護大学生、地域振興団体(まほろばの里)といった多様かつ多くの地域住民を迎えることができた。学習者が普段目を向ける機会がない地域の歴史や街並みについて学んだ。日本人とグループを作って歩いたので、会話を高める良い機会となった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・目標の1つであった「多様な地域住民が集まる赤穂公民館を会場にすることで、地域住民とのコミュニケーションを図る」は十分に達成できたと考えている。会場を市内の文化施設や街中とすることで、より広範囲での関係者を巻き込めた。
- ・今年度事業では、外国籍住民のニーズが高い生活情報講座を別の取組としたため、本取組は日本文化などを主要テーマとすることで、日常生活以外の多彩な住民と日本語に触れる機会とできた。

(3) 今後の改善点について

- ・学習者の参加登録者数は前年より多かったものの、初回以降に彼らの参加率は落ちていってしまっている。アンケートによる検証を行っていても、参加しなくなった学習者から聞き取りが出来ず、彼らが本来求めているニーズや意見が把握できていない。今後の課題である。
- ・学習者の交通手段は自転車が多いので、寒さや荒天が続く冬季の参加がふるわない。また、インフルエンザなどの感染症で参加できなくなる事もあった。冬季でも学習者が参加しやすいような便宜を図ってきたい。

＜取組4＞										
取組4	取組の名称		日本語教育ボランティア人材・組織の育成							
	取組の目標		・駒ヶ根市外の地域で活動している諸団体、コーディネーターの方々に外国人を取り巻く環境や取組を紹介してもらう。研修を通じて、ボランティア個人のみならず、ボランティア組織の運営方法についても知識を深める。 ・既存のボランティアのレベルが上がることで、新規ボランティアへのより良い波及効果も狙う。							
	取組の内容		・第1回目で、外国籍住民を取り巻く直近の動向、彼らとの関わり方、多文化共生のあり方を学ぶ。 ・2回目以降では、ボランティアの意識の在り方、ボランティア組織の運営手法を他事例などを基に学ぶ。また、ボランティア組織運営上の課題などについて説明してもらい、意見交換を行う。 ・日本語指導ボランティアとしてのあり方、外国籍住民との関わり方を学ぶと同時に、他組織の運営方法などへの理解も深め、次年度以降の個人・組織の活動充実に繋げていく。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		・駒ヶ根市企画振興課で研修講師、会場の手配を行う。 ・駒ヶ根市で国際交流と日本語教育に積極的に関わっている地球人ネットワークインこまがねから、組織運営の課題や現状を聞き取りをして、彼らの活動を充実できるような内容に研修内容をアレンジをしていく。 ・今までに複数回研修を受け持った講師とボランティア組織、個人間で自主的な情報交換が始まっている。これを更に枝葉を広げて互助のコミュニケーションの形成を促していく。							
	取組による日本語能力の向上		・日本語教育事業に参加している市民ボランティアの意識とコミュニケーションレベルが向上することで、外国人の日本語学習機会の拡大を見込む。 ・ボランティア個人と組織の活動が活発になることで、新たにボランティアを目指す地域住民の啓発を目指す。これにより、より多くの地域住民と外国人の接点が増すことも期待される。							
	参加対象者		市内在住在勤の及び近隣市町村ボランティア、一般市民				参加者数 (内 外国人数)	24人 (3人)		
	広報及び募集方法		・市のウェブサイト、市報、チラシ、広域情報誌、有線放送等							
	開催時間数		総時間 12 時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		・講師所属団体 ・地球人ネットワークインこまがね							
開催場所		・赤穂公民館 ・必要に応じて市内関係施設を利用								
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		1								
		ペルー(1人)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成28年6月25日(土) 13:30～16:30	3	赤穂公民館	11	日本語指導ボランティア概論	・地域課題と日本語教育 ・学習者のニーズ把握 ・持続可能な社会のために	堀 永乃	氣賀澤 博徳		
2	平成28年8月20日(土) 13:30～16:30	3	赤穂公民館	18	地域と「つながる」日本語教室	・外国人も活躍する社会とは ・日本語教室の場としての機能 ・地域、人とつながる	堀 永乃	氣賀澤 博徳		
3	平成28年12月17日(土) 13:30～16:30	3	赤穂公民館	11	団体の活動例紹介 外国籍住民の現状	・講師所属団体の活動紹介 ・外国籍住民を取り巻く環境の変化 ・地域ができる支援とは	矢崎 理恵	氣賀澤 博徳		
4	平成29年2月4日(土) 13:30～16:30	3	赤穂公民館	10	多文化共生と支援団体の活動例紹介	・長野県内の多文化共生の現状 ・日本語教室活動に必要なこと	春原 直美	氣賀澤 博徳		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成28年8月20日】

外国籍住民を支援の対象だけではなく、これからの日本・地域で活躍してもらう取組について、講師の活動例等を通じて学ぶ研修とした。ただ日本語を教える教室ではなく、地域と繋がりがつつ共に活躍するための考え方や方法について、新旧ボランティアが同時に気付きを得ることができる研修となった。また、これから外国籍住民を支援していこうとするボランティアと既に活動を始めているボランティアの顔を繋ぐ機会ともなった。



○取組事例②

【第4回 平成29年2月4日】

長野県内の外国籍住民支援団体の活動紹介や課題例について知ってもらう内容とした。同じ県内ということで、外国籍住民を取り巻く環境やボランティアが抱える疑問や悩み等も共通点も多く、かなり詳細な質疑応答となり盛り上がった。

講師が当市及び県内各地の日本語教育事業の運営委員を務めているため、他市町村の動向に関する情報の提供もあり、参加者から「たいへん参考になった」と好評を得ることができた。講師とボランティアの人脈づくりにも繋がり、組織間の互恵関係が築かれつつある。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・駒ヶ根市外で活動する団体の多種多様な活動例や、地域ごとの外国籍住民を取り巻く環境等知ってもらうことができた。団体や個人での活動に活かされつつある。また、講師とボランティアの人脈づくりの機会ともなり、情報交換・教材共有といった副次的な効果も出てきている。
- ・新たなボランティアの発掘と既に活動されているボランティアとの顔繋ぎの機会ともなった。

(3) 今後の改善点について

- ・取組開始当初の登録受講者数は多いものの、年度中の継続した参加者はおよそ4割程度である。また、市内で活動しているボランティアの参加率も半分程度であり、研修の効果を波及しきれていない。そういったボランティアをどうやって巻き込んでいくかが今後の課題である。
- ・長野県内外の他団体との繋がりができたことは成果であるが、次年度以降はこれを更に広げていけるような講師依頼を行っていく。

＜取組5＞									
取組5	取組の名称		日本語指導ボランティアの日本語指導力向上						
	取組の目標		・既存、新規の日本語指導ボランティア双方が学べる日本語教授法の学習機会を提供する。 ・通年で定期的に開催し、日本語指導時にボランティアが抱えた疑問や悩みの相談の場とする。						
	取組の内容		・日本語の基礎的な教授法について学ぶ。 ・教授法の知識のみではなく、日本語教室のファシリテーション、受講者との接し方などについても学ぶ。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		・駒ヶ根市企画振興課(募集広報・会場と講師手配) ・地球人ネットワークインこまがねの日本語教室を実践の場として活用する。						
	取組による日本語能力の向上		・市民ボランティアの指導力向上により、外国人の日本語学習機会の拡大を見込む。 ・指導力が向上することで、日本語教室に通う外国人の満足度を高めて、受講者の出席率向上や新規受講者開拓が少しずつではあるが改善が期待できる。						
	参加対象者		市内在住在勤の及び近隣市町村ボランティア、一般市民				参加者数 (内 外国人数)	27人 (3人)	
	広報及び募集方法		・市のウェブサイト、市報、チラシ、広域情報誌、有線放送等						
	開催時間数		総時間 20 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		・地球人ネットワークインこまがね						
	開催場所		・赤穂公民館 ・必要に応じて市内関係施設を利用						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
2									
ペルー(1人)									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	平成28年6月4日(土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	13	日本語教授法指導	・日本語指導の始め方 ・世界の中の日本語 ・外国語として日本語を見てみよう		関井 朱美	氣賀澤 博徳
2	平成28年7月2日(土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	18	日本語教授法指導	・日本語を客観的に見てみよう ・必要な文法、文型とは		関井 朱美	氣賀澤 博徳
3	平成28年9月10日(土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	12	日本語教授法指導	・日本語教育に必要な文法、品詞、文型とは		関井 朱美	氣賀澤 博徳
4	平成28年9月24日(土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	11	日本語教授法指導	・形容詞、動詞の分類と活用形		関井 朱美	氣賀澤 博徳
5	平成28年10月15日(土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	11	日本語教授法指導	・言葉の形の変化を確認 ・JLPTの概要説明		関井 朱美	氣賀澤 博徳
6	平成28年11月12日(土) 13:30～15:30	2	赤穂公民館	10	日本語教授法指導	・これまでの学習内容の復習		関井 朱美	氣賀澤 博徳
7	平成28年12月3日(土) 13:30～16:30	3	赤穂公民館	10	日本語教授法指導	・学習者の学習進捗の見極め方 ・学習進捗ごとの指導方法、留意点		関井 朱美	氣賀澤 博徳
8	平成29年1月14日(土) 13:30～16:30	3	赤穂公民館	11	日本語教授法指導	・日本語学習の具体的方法 ・日本語学校と地域の教室の違い ・フリートークで終わらないために		関井 朱美	氣賀澤 博徳
9	平成29年1月28日(土) 13:30～16:30	2	赤穂公民館	12	日本語教授法指導	・やさしい日本語について 概要、重要性、具体的事例、作り方		関井 朱美	氣賀澤 博徳

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成28年7月2日】

講師の経験を基に、学習者がつまづく所や文法をどうやって理解していくかを指導。それを踏まえて日本語の文法体系を客観的に説明し、難解そうに見える文法も一定のルールさえ覚えれば、学習も指導も円滑に進むことを参加者に理解してもらった。



○取組事例②

【第9回 平成29年1月28日】

「やさしい日本語」について概要の説明後、実際に例文を「やさしい日本語」へ言い換えるグループワークを実施した。その有効性、特に災害時に情報弱者になりやすい外国籍住民の減災への効果を認識してもらうことができた。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・既存・新規の日本語指導ボランティアに継続した日本語教授法を学ぶ機会の提供ができた。彼らが活動する日本語教室の学習者から「日本語の指導がわかりやすくなった」という感想が多く寄せられるようになった。また、研修内容の一つである「やさしい日本語」を意識して日常会話や日本語指導を行うことで、コミュニケーションが円滑に進んでいるようである。
- ・講師が取組1の日本語教室に参加して実際に指導する、学習者の様子や他のボランティアの指導方法を確認するといった動きにも繋がっている。講師とボランティアの関係も、日本語指導時の疑問や悩みを気軽に聞ける関係が築かれている。

(3) 今後の改善点について

- ・取組4と同様に開始当初の登録受講者数は多いものの、年度中の継続した参加者はおよそ4割程度である。また、市内で活動しているボランティアの参加率も半分程度であり、研修の効果を波及しきれていない。そういったボランティアをどうやって巻き込んでいくかが今後の課題である。
- ・年間を通じての連続した研修であったので、全てに参加することは難しいという意見が寄せられた。今後は、一度の研修で完結する内容にしたり、模擬授業を行ってみるなど、参加者の負担軽減と関心が高い内容を検討する必要性を感じた。

＜取組6＞										
取組6	取組の名称		日本語学習発表会							
	取組の目標		・地域住民との交流の中で母国及び自分自身をPRする。 ・地域住民への活動発信の場とし、日本語学習の必要性を地域住民に理解してもらう。 ・発表会を設けることで、受講者の語学力向上を図る。							
	取組の内容		・平成29年2月または3月に、1年間の学習内容・成果の発表を行ってもらう。全ての取組に参加する外国人とボランティアに参加を呼びかける。 ・ボランティア以外の地域住民にも参加してもらい、交流を持ってもらう。 ・全取組受講者が参加し、ボランティアも連携して準備する。 ①日本語で母国や日本での体験、1年間で学んだ日本語等スピーチ大会を行う。 ②地域住民との交流を行う。 ・日本語学習発表会に参加してくれた方々へアンケートを実施し、学習発表会の成果を検証する。							
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		・地球人ネットワークインこまがね、赤穂公民館、長野県看護大学、本事業と連携いただいた諸団体から参加者を募り、受講者の日本語習得の成果を確認する。 ・本事業の関係団体がまとまることで、それぞれの取組の成果と課題を共有し、更に連携していく体制構築の契機とする。							
	取組による日本語能力の向上		・日本人に向かって発信することを目的としているため、日本語力の向上が期待できる。 ・初対面の地域住民と接する機会となるので、日本人とコミュニケーションをとる練習になる。							
	参加対象者		本事業の全取組に関係した外国人、ボランティア、関係者					参加者数 (内 外国人数)		36人 (16人)
	広報及び募集方法		・受講者による出身国コミュニティ所属者に呼びかけ ・受講者・ボランティアのSNS経由の情報拡散							
	開催時間数		総時間 20 時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		・地球人ネットワークインこまがね ・赤穂公民館 ・長野県看護大学 ・本事業と連携いただいた諸団体							
開催場所		ふれあいセンター								
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		1	2	0	0	2	1	0	4	
		ペルー(6人)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成29年2月26日 (日) 10:30～14:00	3.5	ふれあいセンター	36	日本語学習発表会	今年度の取組に参加した学習者による成果や意見発表		藤井 佳代	氣賀澤 博徳	

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年2月26日】

今年度の日本語教育事業に関わった学習者とボランティアが集まり、今年度の成果発表と自国の文化紹介等を日本語で行った。取組1の日本語教室からは、各曜日開催の教室ごとに成果発表と学習者からのスピーチがあった。昼食は参加者の母国料理を持ち寄り、全員で歓談しながらの会食とした。後半では、ボランティアから地域芸能を教える等、お互いの文化交流の機会もなった。



(2) 目標の達成状況・成果

・参加者に聞き取りでアンケート調査を実施したところ、「新しい友達ができた」、「来年度以降の活動の参考にしたい」といった好意的な意見が寄せられた。
・全ての取組の学習者、ボランティア、運営委員等が一同に会する機会となり、新たな人脈造りや情報共有の契機となった。市外からの外国籍住民やボランティア志望者等も集まり、地域の外国籍住民や当事業について関心を持ってもらうことができた。

(3) 今後の改善点について

・多くの関係者に集ってもらえたが、「外国籍住民は自家用車を持っていない方が多いので、冬場のイベント開催に集まりにくい」との意見も寄せられた。今後は開催時期を年度末にこだわらずに、より人が集まりやすく効果を波及させやすい時期の開催を検討する必要がある。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・市及び市民団体が運営している日本語教室・講座が協働・連携して、日本語を母語としない外国籍住民に対する効果的な日本語教育事業を展開する。
また、関係団体が連携する仕組みも構築し、異文化理解力の向上を図る。日本人と外国人とが円滑な市民生活を創出するための多文化共生のまちづくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・前年度の事業から中心的な役割を担っている「地球人ネットワークインこまがね」と「赤穂公民館」での各取組が2年目となり、それぞれに学習者・ボランティア双方の参加者と開催時間の増加となった。特に取組2においては、公民館の婦人部や分館活動、外部団体と連携した内容が盛り込まれた。学習者と地域住民の交流の裾野が広がってきている。
・日本語指導ボランティア研修への参加者からは、新しくボランティア活動を取組1で始めるなど、新旧ボランティアの人脈造りと活動場所の提供といった副次的な効果があった。前回に引き続き、長野県看護大学の「多文化共生看護学」受講生に参加してもらい、内容と関係者の多様化が図れた。
・日本語指導ボランティア研修、特に日本語教授法指導については、参加者から好評であった。普段の活動で不足していたスキルを補えたことで、指導方法の改善や学習者の理解度向上に貢献できていることが、学習者のアンケートからも伺えた。また、研修を担当した講師とその所属団体との互惠関係の構築がなされ、情報共有や教材の提供、組織運営ノウハウ提供といった動きが出てきている。
・今年度は、外国籍住民へのチラシ郵送だけでなく、各国コミュニティを代表する顔役に情報を提供することで、新たな参加者が増えた。
・事業全体の体制としては、「それぞれが担当する取組、業務について明確になった」という評価を運営委員から得ている。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・各取組の担当者との連携が2年目を迎えたこともあり、それぞれの役割分担と責任の所在が明確になった。それを踏まえた上での事業の企画・実施を行うための基盤整備が進んできた。
・市内外の団体との繋がりがや長野県看護大学生の継続参加が進んだことで、各取組を担当する団体とボランティアの活動内容が多様化してきた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・既存の広報媒体(ちらし・有線放送・市ホームページ等)での広報だけではなく、関係団体のSNSへの情報掲載や各国コミュニティの顔役へ情報拡散の助力を仰いだ。今までの広報手段では届かない層に情報が届き、取組への新規参加者が増えた。
・日本語指導ボランティアや参加者が持つSNSやLINEといったコミュニケーションツールを利用して情報拡散を行ってもらった。市担当者だけではなく、関係者の広報への積極的に関わりを持ってもらうことができた。

(6) 改善点、今後の課題について

・新たな学習者が増える反面、教室へ来なくなってしまう学習者情報の把握ができておらず、不参加の理由や本当のニーズを拾いきれていない。更に多くの参加者を集めて、生活情報のような生活の質を上げる情報提供をもった多くの外国籍住民へ届けていく必要がある。
・全体の体制整備については、運営委員アンケートからも少しずつではあるが進んでいるとの評価を受けた。しかし、関係団体との連携や地域住民の日本語教育への理解については前年並みの評価となり、改善の余地が大きい。連携できる団体を市内外に広く求めて、積極的な関係造りが求められている。
・運営委員会の協議内容が「これまでの取組とその課題の分析に時間をかけすぎていて、新しい試みに進みにくい」、「それぞれの取組担当者からの新規の提案が出てこない。取組に対して受身すぎないか」といった意見が寄せられている。コーディネーターが手を出しすぎた感が否めないの
で、関与する度合いには留意が必要である。
・各取組の担当者からの提案事業へ「資料翻訳・通訳者派遣・会場提供」といった支援をしてきたが、企画・段取り・実施の負担が大きい。個人に負担が集中しがちな組織体制の見直しが必要となってきた。
・学習者のアンケートや聞き取り調査から「日本語指導ボランティア研修を受講するボランティアとしないボランティアの日本語指導法やコミュニケーションレベルの差が出てきている。」といった声を寄せられている。既存ボランティアの研修受講率を上げる工夫が求められている。

(7) その他参考資料

:各取組ごとに作成したチラシ

:取組2で使用した資料(各言語版) ※NEWSでは教材として掲載